



# 色の軌跡VI



「ちよちよちよちよちよつと！  
この格好はずかしすぎる  
んですけど！」

「あーちよちよちよちよつと！  
はじつは早く見たいな  
さっさと早く見たいな  
さっさと早く見たいな」







(すごい……)  
お腹まで  
垂れてきちゃった

ほあ

ほあ

つぽ

トロオ



「ア、どうかな？  
結構成長したと  
思っんだけど」

「ん、すっかりやる気だね  
ふふっ、嬉しい」









ほー

ほー

「ほあ...ほあ...  
すこかった  
ごめん...  
しばらく動けないかも」

トッ  
ッ



「だって久しぶりなんだもの  
今日ぐらい  
いいでしょう？」

「ねえ早く……」







「ええっ！  
出るよ！お尻が見せろよ！  
[Uraai]

「仕方ないわね  
どどど  
これでいいかしら？」

お尻  
お尻



「前は不埒だと思っていたことも今は貴方になら良いと思う自分がいます」





アッ...

ん  
ほあ  
あ  
あ  
あ

ん  
ん  
ん

ん  
ん

ん  
ん





「胸の奥が暖かくなる  
。。。不思議な感覚です」

「貴方に教えてもらった  
この気持ち  
大事にしたいです」

ふふっ

ト  
ト  
ト



「なんだじゃ  
ヌンはこちらの姿の方が  
好みなのか？」

「ま、よかろ  
とやかかく言うまい  
このまま相手してやろう」







「妾をここまで乱れさせるとは…  
又シめ、こちらの方もなかなかの  
手練れの上うじやの」

ふっ  
ふっ

ふっ  
ふっ

エロ



「今回は「ちの」の恰好がよいのですか？」

「これもコスチュームプレイに入るのかしら」



あ♡

は♡

ん♡

あ♡

は♡

ん♡

あ♡

は♡

ん♡



ビュッ

ビュッ

あああ  
あああ  
あああ





「あんツ♡  
そんなに揺げて見られたら  
恥ずかしいですわ」

あ  
ん  
ツ♡  
♡

トキ

「くっ……  
思わず交機屋で  
手に入れてしまいましたわ」

「だいたい  
彼がいつもいつも  
思わせぶりなことを  
言ってくるから  
わたくしはこんなこと……」

「しかしこんなものを使うのは……  
いえ、捨ててしまうのも  
勿体ないです」  
「度だけ……度だけですわ」









「うう…  
どうしましろう  
すこく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…  
マスターに顔向け  
できませんわ」



「もうっ  
そんなにかっこいいで」

「良い子にしてたら  
すぐ気持ちよくしてあげる」









「ハアハア……  
あなたなかなか癒かやるじゃない」

「また相手してあげても  
いいわよ♡」

ドロォ



「ああっ！  
わたくしっ！  
なんてはしたない格好を」

ハッ  
ハッ







「ああつ...  
そんな風に見られたら  
恥ずかしいです」

クハッ  
ア

ゴッ



「まさか風をなれること  
ずっと夢見ていました」

「私を見様のものに  
してください」









「妹ではなく  
一人の女として  
そばにいられること……  
とても嬉しく思います」





























































































「こんな格好で  
おしっこさせるなんて  
ほんとに、ほんとに...」

「ベッド汚れても  
知りませんから」

アアアアア  
ア



「んっ溜まってたから  
いっばい開るかも」

シヨオオオオオ



おしつこの穴まで  
全部見られちゃってる



「またですか？  
仕方ない人ですね」

ミ  
ニ  
オ  
オ  
オ  
オ

「こんなものを見て  
何が楽しいのか  
理解しかねます」



「こんなものが見たいとは  
おかしな奴じゃな」

「ほれ  
これで満足か？」

オオオオオ



「おすかです  
いい趣味してますね♡」

イニャアアア



「あ、貴方には借りもありませんし、度だけですよ！」

シボボ





「おしつこ好きな男って  
案外多いのよねえ」

ニ/オオオ



「こんなに足を開いて  
おしっこするとこまで  
見られてしまうなんて…」

ヨ  
オ  
オ  
オ  
オ

































































ほー

ほー

「ほあ...ほあ...  
すこかった  
ごめん...  
しばらく動けないかも」

ぽっ





















「お尻  
閉まらなくなっちゃった...」

お尻  
お尻



















アッ!

ん  
ほあ  
あ  
あ

ん  
ん  
ん

ん  
ん



























「妾をここまで乱れさせるとは…  
又シめ、こちらの方もなかなかの  
手練れのようにやの」

ふっ  
っ

ふっ  
っ

アロニ





























「こんなに激しくされたら  
お尻閉じなくなっちゃいます♡」

To























あゝひ

あ

あ

あ

あ

ドク

ムル

セクシ

ム

ム

ム

ム

ム





「うう…  
どうしましょう  
すこく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…  
マスターに顔向け  
できませんわ」















「うう…  
どうしましょう  
すこく気持ちよかったですわ」

「こんな情けない姿…  
マスターに顔向け  
できませんわ」





















「ハアハア……  
あなたなかなか癒かやるじゃない」

「また相手してあげても  
いいわよ♡」

ドロォ





















「お尻がこんなに  
気持ちいいなんて...











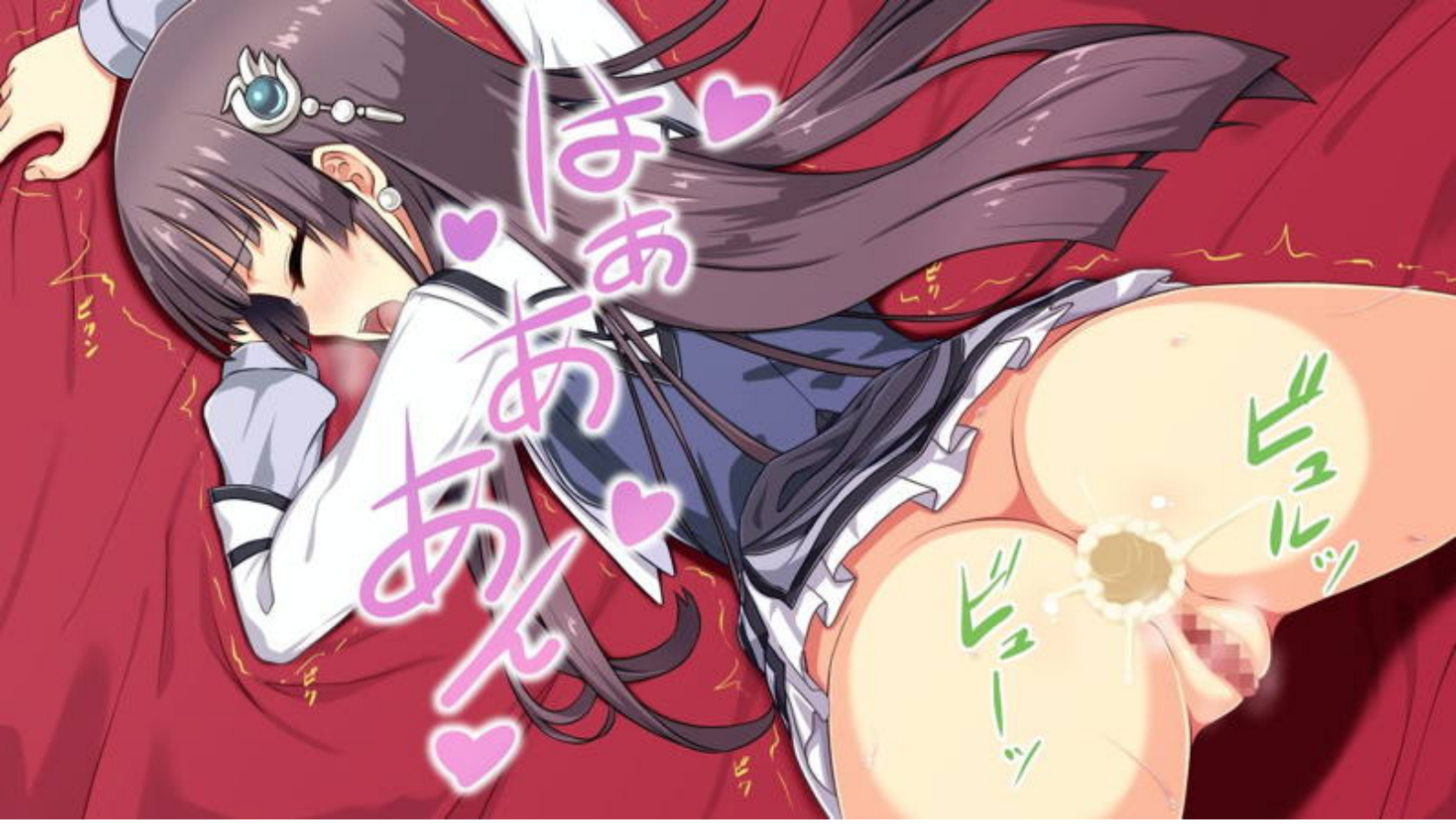












はあ  
あ  
あ  
あ



ムム  
ムム  
ムム





「妹ではなく  
一人の女として  
そばにいられること……  
とても嬉しく思います」





































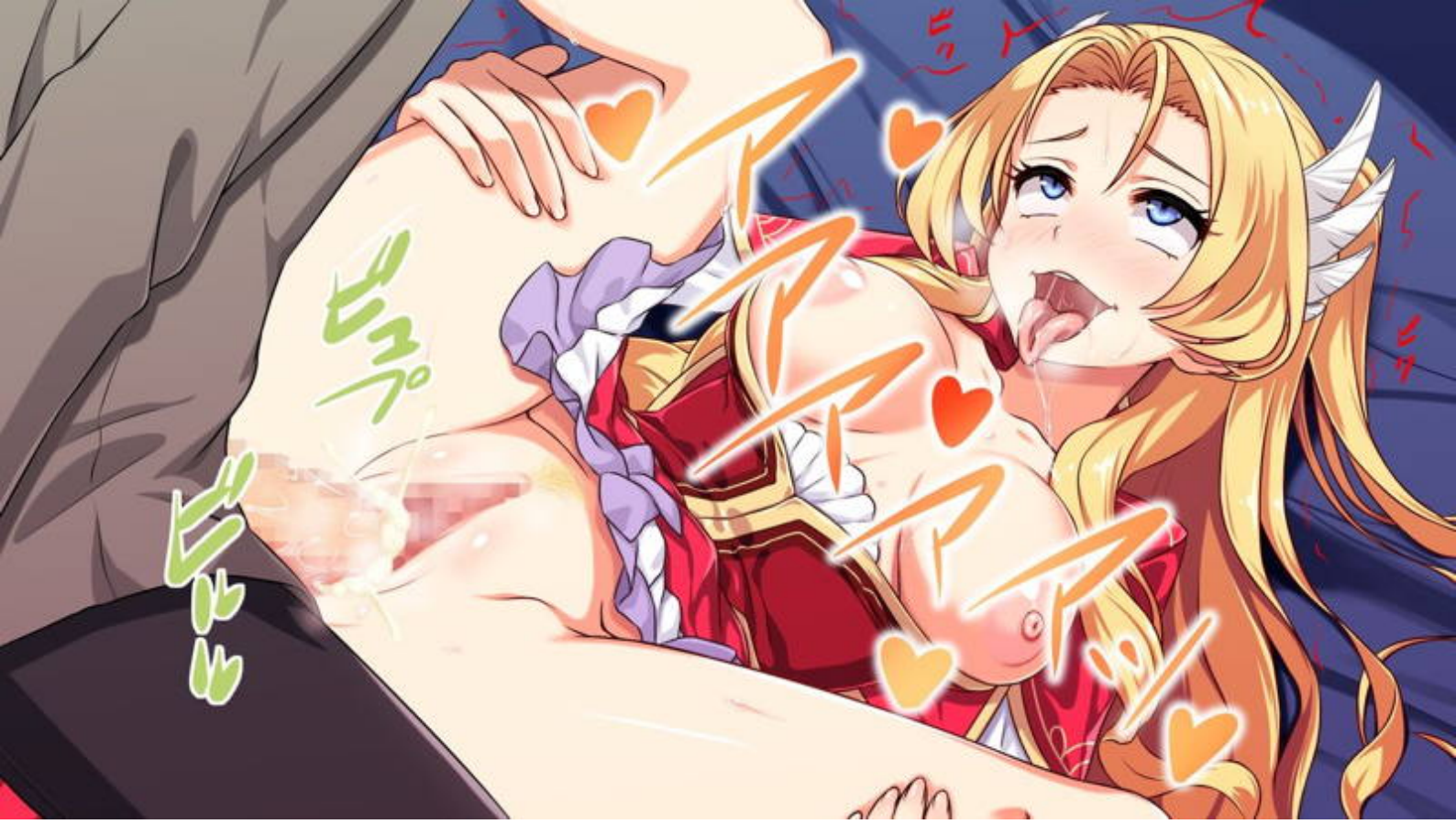






















































































ビュッ

ビュッ























この格好  
お腹押されて...  
もう我慢できなぞー)







この格好  
お腹押されて...  
もう我慢できなげー





「...はあ  
相変わらず  
これが好きなんだね」

「あっー  
もう出そう」

グ  
グ  
グ  
グ

グ  
グ



「んっ!  
太いの...出る...」

三ッ  
ニッ

アリュ



「...はあ  
相変わらず  
これが好きなんだね」

「あっー  
もう出そう」

ア  
ア  
ア  
ア  
ア

ア  
ア  
ア



「お尻。。。  
気持ち悪い」





「ああああっ  
見ないでえ……!」

ビシヤアア









「ああああっ  
見ないでえ……!!」

グワッ  
グワッ



（ううっ…）  
この人に頼まれると  
なぜか断れませぬ





（ううっ…）  
この人に頼まれると  
なぜか断れませぬ





「アッ、  
これはかなりの  
上級者向けでは？」

「さすがの妾も  
緊張しておるわ」





（全裸で）  
こんなときに  
長いのが出るわ）

ムキ  
ムキ  
ムキ  
ムキ



「アッ、  
これはかなりの  
上級者向けでは？」

「さすがの妾も  
緊張しておるわ」



くうう...  
これほどの羞恥  
初めてかもしれない



（さ）これは...  
自分でもわかるくらい  
臭いですね

アアアア

アア



「あつ〜」  
「太くて硬い〜」  
「お尻が裂けててしまいそう〜」

×  
×  
三  
四  
三  
四  
+



「さ、これは...  
自分でもわかるくらい  
臭いですね」

アハハ

アハハ



「あつぷつ！  
パンツから  
溢れちゃいます」

パンツ  
から  
溢れ  
ちゃ  
います



「その、……するとこが見たいだなんて貴方変態ですの!!」





「あまりじっくくり  
見るんじゃありませんわ！」



「あまりじっくわり  
見るんじゃありませんわ！」



「その、……するとこが  
見たいだなんて  
貴方変態ですの!!  
下変態ですの!!」



「あまりじつくり  
見るんじゃありませんわ！」



「こんなもの見て  
何がいいのかしら？  
理解できないわ」



クニクニ  
クニクニ

ニクニク

んん

ふっ



「こんなもの見て  
何がいいのかしら？  
理解できないわ」







「貴方の願ひなら  
すぐ恥ずかしいで  
わたくし...」

アッ  
アッ  
アッ



「ああっ！  
こんなわたくしを見ても  
嫌いにならないでください」

三千

ギギ

mpo

==



「貴方の願いなら  
すぐ恥ずかしくて  
わたくし……」

アッ  
アッ



「ああっ！  
こんなわたくしを見ても  
嫌いにならないでください」

ビィ  
ビィ  
ビィ



「えっ、  
僕がなにを  
してんのかしら」



見られてます  
私の一番恥ずかしいところ  
全部見られてます



「えのほほ  
僕がないでくださいー」



見られてます  
私が一番恥ずかしい  
全部見られてます



























































































































































































































































